

第72号



2022 年度 秋号

土木技術者女性の会 とは

<団体名>

一般社団法人 土木技術者女性の会

The Society of Women Civil Engineers

<会の生い立ち>

土木学会誌(1982年9月号)に掲載された「女性土木技術者の座談会」がきっかけで1983年1月に発足しました。座談会の席で、「日本各地で孤軍奮闘している女性の土木技術者が情報交換できるような会を…」ということになり、同誌で呼びかけ、約30名でスタートしました。

創立以来、任意団体として活動してまいりましたが、2013年11月18日(土木の日)に一般社団法人土木技術者女性の会として新たに発足しました。

<会の目的>

土木学会誌の座談会をきっかけにしていますが、女性土木技術者特有の問題をきめ細かく取り上げ対応していくために、独立した団体として活動しています。

女性技術者の質の向上と活動しやすい環境作りのために、次のような目的を掲げています。

1. 土木界で働く女性技術者同士のはげましあい
2. 土木界で働く女性技術者の知識向上
3. 女性にとって魅力のある、働きやすい土木界の環境作り
4. 女性土木技術者の社会的評価の向上
5. 土木技術者を目指す女性へのアドバイス

<倫理規定>

当会では次のような倫理規定を定めています。

会員は、会の目的を実現する際にあたって、下記の倫理規定を遵守するものとする。

1. 会員は、会の目的に沿って、各々の良識のもとに、正しく品位ある行動をする
2. 会員は、所属組織を代表するものではなく個人の立場で会の活動に参加する
3. 会員は、会の活動において、業務上の利益に結びつけるいかなる行動も行わない

<会誌「輪(りん)」について>

1983年に開催された第1回総会にて、会誌の名前についても話し合いが行われています。

「輪」の文字は、「友達の輪」という発想より早々に決まりました。

そして、「りん」という言葉の響きの心地よさと会員同士のつながりを大事にしたいという思いを込めて名付けられました。

(1983年 第一回総会議事録・参加者証言抜粋)

目 次

01 巻頭言：植田文子 ～ 見えないところでつながっている ～

02 特集★一般社団法人 土木技術者女性の会 第 10 回総会開催報告

03 | 一般社団法人 土木技術者女性の会 第 10 回総会

05 | 現場見学会動画視聴「JR 東海道線支線地下化・新駅設置事業」

07 | 意見交換会「40 周年記念誌お披露目会」

08 | 参加者の感想

芳山慧子/川瀬 瞳/坂口未由希/北崎千愛

13 ホトケの文書講座 -其の式-

※-其の壱-は 2019 年度秋号(第 66 号)に掲載しています

14 一般社団法人 土木技術者女性の会 組織図 2022

15 新任運営委員の紹介

副会長 本田顕子/東日本支部長 中田宏美/

中部支部長 前川利枝/法務担当 水野香織

17 運営委員 退任によせて

小林千佳/青木治子

- メディア掲載
- サポーターおよび新規会員募集
- 寄附制度のご案内
- 編集後記

見えないところでつながっている

九州支部長 植田文子



こんにちは。6月より九州支部長に就任致しました植田と申します。

2020年に設立された九州支部。新型コロナウイルス感染症拡大の頃

で、なかなか直接お会いできないままスタートした支部ですが、現在、九州支部は37名の会員が所属しており、九州各地、沖縄と、様々な地域で勤務・居住されています。それぞれは離れてはいますが、ここ数年で、WEB会議が多用されるようになり、直接会えないときも、オンライン上でつながっていけることが分かりました。この会を通じてたくさんの情報交換ができるつながりを九州支部で育んでいきたいと思います。これから、どうぞよろしくお願い致します。

ところで、つながりといえば。。

突然ですが、「土木」という言葉から一番に思い浮かぶインフラ施設は何ですか？…真っ先に下水道を思い浮かべる人は少ないのではないかと思います。

ほとんどの方が、きれいとは逆のイメージを抱くであろう下水道、地中に埋設されていて、普段人の目に触れることが少ない下水道。

わたし自身、以前は埋設物や地下構造物という認識はあっても、例えばトイレをジャーっと流したらそこで終わり、その先を考えてみようなんて思いもつきませんでした。

でも、この巻頭言を読んでもくださっている方は、その先に思いを馳せてみてください。

流した水は、下水管を通り、下水処理場へと流れます。そこできれいな水へと処理され、海や川へと戻り、やがて蒸発して雲となり、雨となって、

またわたしたちのところへ帰ってきます。

だいぶ端折ってはいますが、水を流したら最後、その先はきれいになっていくイメージしかない！例えるなら、かわいい水玉くんが旅をして空から帰ってくるイメージさえ浮かんできます。とてもロマンを感じませんか？（強引過ぎますか？）

そんな下水道ですが、目に触れやすく、しかも今、人気な施設があります。

それは、マンホール！マンホールの蓋のデザインは、各地で様々な趣向を凝らしたデザインとなっており、路上の文化物とまで言われています。自治体等ごとにデザインされたマンホール蓋は、ご当地ものとしてコレクションカード化され、「マンホールカード」なるものが各地で配布されています。

ただの蓋じゃないこのデザインマンホール蓋、発祥はわれらが九州支部管内、沖縄県那覇市のマンホール蓋だそうです。とてもかわいいデザインなので、ぜひ、由来とあわせ検索してみてください。そして、今までマンホールに興味のなかった方は、ぜひお近くのマンホール蓋のデザインも見てみてください。旅先でも、その土地ごとのマンホール蓋のデザインを楽しむことができ、旅の楽しみが増えるはず。

路上では点でしかないものですが、もともと管きよ内の点検、清掃のための出入り口となるマンホール。その下は管きよでつながり、流れる水は、やがて、その先の海や川、空へと、見えないところでつながっています。

同じように、離れていても、見えないところにつながっているわたしたち。こうしてつながったご縁が、これからもずっと続いていきますように。

一般社団法人 土木技術者女性の会

第 10 回通常総会

開 催 報 告

担当:西日本支部

日にち:2022 年 6 月 24 日(金)・25 日(土)

2022 年 6 月 25 日(土) 10:45-12:00

一般社団法人 土木技術者女性の会 第 10 回通常総会

大阪府立男女共同参画・青少年センター(ドーンセンター)特別会議室

+ ウェブ会議システム(Zoom) …p.3

2022 年 6 月 24 日(金) 15:00-17:00

現場見学会動画視聴

「JR 東海道線支線地下化・新駅設置事業」

ウェブ会議システム(Zoom) …p.5

2022 年 6 月 24 日(金) 18:30-21:00

意見交換会

「40 周年記念誌お披露目会」

ウェブ会議システム(Zoom) …p.7

参加者の感想

…p.8

※ウェブ会議システムは当会の Zoom システムを使用

一般社団法人 土木技術者女性の会 第10回 通常総会報告

日時:2022年6月25日(土) 10:45 - 12:00

場所:大阪府立男女共同参画・青少年センター(ドーンセンター)特別会議室

出席:19名、電磁的議決権行使116名、委任状0名(ウェブ会議システム傍聴者28名)

合計135名(議決権のある会員数の10分の1以上であるため成立)

報告者:深瀬尚子(西日本支部)

一般社団法人となってから、10回目の通常総会が開催されました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、正会員の方々には感染症流行状況やご自身の体調を十分確認のうえ来場の判断をお願いしました。また、会場は100名以上の定員を確保できる大きな会議室を用意し、来場された方々には十分な距離をとって着席いただきました。さらに、当日の来場を控える正会員の方々には、事前に電磁的方法(インターネット)によって議決権を行使したうえで、当会のZoomシステムによるウェブ会議方式での総会聴講が可能となるよう設備を整えました。



【会場の様子】



【受付で体調確認・検温・手指の消毒を実施】

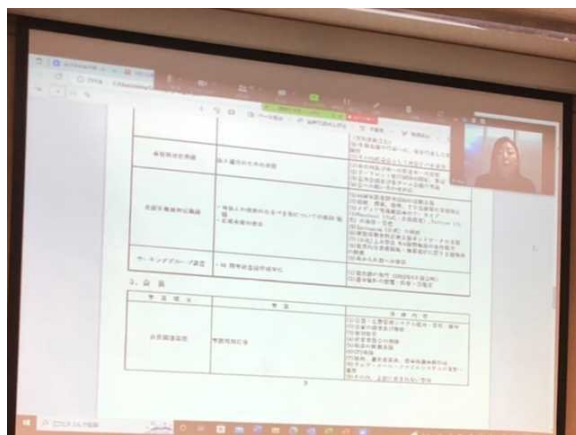
はじめに、牛山育子会長より2020年度からコロナ禍での総会開催となったこと、その中で開催に向けて準備・調整を続けてくれた総会スタッフへの謝意と会員の体調への配慮のほか、今年度はウェブ会議方式で各理事および正会員の聴講者と回線を繋ぎ、前年度より多くの情報を発信できる事について、「今年度こそは対面での総会を考えていたが、昨今の感染状況を鑑み、このような判断となった。制約のある中ではあるものの、ウェブでの聴講など、可能な事にはチャレンジし、今後も実績として積み上げていきたいと考えている。」との挨拶がありました。

その後、議長からの総会成立の宣言があり、議案審議に入りました。審議報告内容については議事次第のとおりです。

議案審議終了後には、各支部長からの挨拶と2022年度の活動についての詳細が紹介されました。また、本総会で副会長を退任し新たに法務担当運営委員となった水野香織さん、支部長を退任する小林千佳さん、青木治子さん、支部長を退任し新たに副会長に着任した本田顕子さん、新たに支部長に着任した中田宏実さん、前川利枝さん、植田文子さんからそれぞれ挨拶がありました。



【総会開催の様子 1】



【総会開催の様子 2】

※遠方の理事はインターネット経由で参加

< 議事次第 >

開会

I はじめに

- 1 会長挨拶(牛山育子)
- 2 議長選出
- 3 総会成立の宣言

II 議案審議

- 第 1 号議案 理事選任の件
- 第 2 号議案 2021 年度 決算報告
- 第 3 号議案 2022 年度 事業計画(案)
- 第 4 号議案 2022 年度 予算計画(案)

III 報告事項

- 第 1 号報告 2021 年度 事業報告
- 第 2 号報告 運営委員の任命(案)について

次回・次々回総会開催の担当支部

- 次回の総会(2023 年度):九州支部
次々回の総会(2024 年度):北海道支部



閉会

○退任・新任する運営委員の挨拶

○各支部長および輪編集長、WG リーダーより 2022 年度の活動計画の紹介

※総会の議事録は、当会ウェブサイト<会員ページ>に掲載しています。

現場見学会動画視聴「JR 東海道線支線地下化・新駅設置事業」

日時:2022 年 6 月 24 日(金) 15:00 - 17:00

場所:ウェブ会議システム(Zoom)

出席:24 名(正会員 23 名、サポーター 1 名)

報告者:深瀬尚子(西日本支部)

当初は総会前日に JR 東海道線支線地下化・新駅設置事業(大阪府大阪市)の現場見学会を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、現地での開催に代えて事前に撮影した動画をウェブ会議形式で視聴しながら、解説を加える形で「現場動画視聴会」を開催しました。

事前の動画撮影は総会開催前の 6 月 17 日に、西日本旅客鉄道株式会社のスタッフ 2 名で行いました。事業区域北側の U 型擁壁区間か

らトンネル内部、事業区間南側まで、約 1.7km の工事区域を撮影し、約 35 分の動画に編集しました。

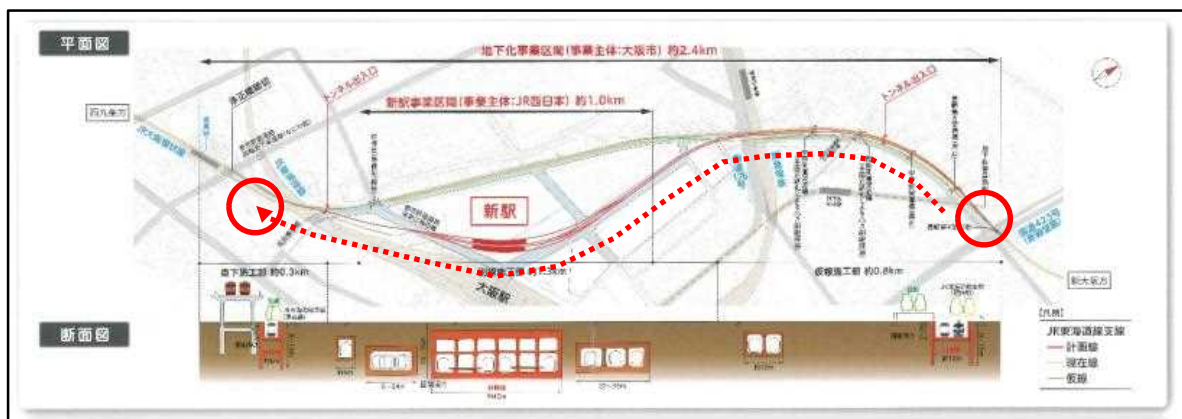
今回見学した現場は大阪府大阪市にある通常「うめきた(梅田の北エリア)」と呼ばれるエリアで実施中の「うめきた 2 期区域」開発事業の中の 1 つで、現在は地上を走行する JR 東海道線支線を地下化し、新たに地下駅を設置するものです。

2023 年春の新駅開業まで 1 年を切った状

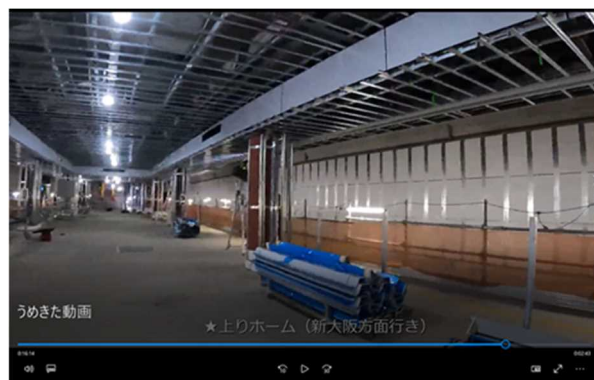
況で、撮影時は既に完成しつつある地下トンネルや駅のホーム、敷設された軌道の様子を見学しました。動画では軌道の施工手順や特殊な分岐器など、一部マニアックな内容も交えながら地下トンネル内部を見学することができました。また実際には大人数では見学できないような狭隘な箇所も、動画の撮影であれば可能だったことから、対面開催よりも詳細に現場の様子を確認でき、工事内容の説明を聞くことができました。



【事前撮影の様子】



【工事概要 平面図 (赤線は動画撮影ルート)】



【現場見学動画の様子】



【動画視聴会の様子】

視聴後、参加者からの質疑や感想を受けて
現場動画視聴会は終了となりました。

今回はコロナ禍で対面での見学会とはなりま
せんでしたが、供用開始されていない駅の様子
や線路の敷設方法など、鉄道の特異な工事現
場の様子を知ることができました。

動画を撮影するにあたり、多大なるご協力を
賜りました西日本旅客鉄道株式会社様にこの
場を借りて感謝申し上げます。

意見交換会「40 周年記念誌お披露目会」

日時:2022 年 6 月 24 日(金) 18:30 - 21:00

場所:ウェブ会議システム(Zoom)

出席:30 名(正会員 30 名)

報告者:深瀬尚子(西日本支部)

見学会終了後、ウェブ会議形式で開催された意見交換会は 30 名の方が参加しました。

水野副会長の挨拶・乾杯のあと、参加者の方々の自己紹介を行いました。特に初めて参加される方には Zoom チャット上で質問が出され、これに答える場面もありました。

また、今年度は、会の設立 40 周年を迎える節目の年でもあることから、鋭意制作中の「40 周年記念誌」に関するイベントを開催しました。40 年を迎える”いま”から、10 年後の設立 50 周年へ“つなぐ”活動をこれからも続けていくための、一冊になる予定です。

イベントでは、松本香澄 WG リーダーより記念誌のコンセプトや一部内容が紹介されました。また、記念誌内の特集の1つである「若手座談会」に出席したメンバーと、WG スタッフの長谷部直子さんによる振り返り会も開催し、座談会を終えての感想や会の 40 年の歴史への思いなどを紹介しました。

その後、Zoom のブレイクダウンルーム機能を使用し、参加者は 4~5 名のグループに分かれて歓談しました。Web 上ではありますが、支部を超えて交流を深めることができました。最後に南副会長からの挨拶があり、閉会となりました。

【コンセプト】



設立40周年 どぼくの未来を創り続けるために

2012年、私たち土木技術者女性の会は、設立30周年の節目に「どぼく未来宣言」を発表しました。

その後、土木を取り巻く環境が人々の暮らしに及ぼす影響力はさらに膨らんでいます。地球規模に及ぶ環境の変化、未曾有の自然災害との直面、そして新型コロナウイルス感染症の脅威の前に、人々は翻弄されつつも、新しい暮らし方を模索しています。私たち土木技術者も、時代に合わせた将来像を模索している状況です。

しかし、そのような状況にあっても、先の「どぼく未来宣言」に記載された、土木が果たすべき使命、そして土木技術者が果たすべき役割は、内容の幅が広がり、深みが出てきたことによって、さらにその重要性が増してきたように思います。

「人類」「地球」「宇宙」を視野に、「過去」「現在」「未来」をつなぎ、未来を輝かせるために現在を生きる私たち。

引き続き、私たちは、土木技術者の自覚を胸に、これからの土木の未来を創り続け、新しい社会を支えてまいります。



2022年6月
土木技術者女性の会

【40 周年記念誌 概要版から抜粋】



**総会関連行事・
オンライン現地見学
会に参加して
芳山慧子(東日本支部)**

入会して数年、幽霊会員状態を脱却し、初めて総会関連行事に参加しました。大阪駅周辺で今どのような工事が行われているのか？ 現在鉄道会社で駅改良工事を担当し、大学時代を大阪で過ごした私にとって、まさに見逃せない内容で参加を決めました。以下、感想と近況、今後の抱負を記載します。

1. 現場見学会の動画視聴

見学で印象的だったのは「直下施工」と「フルスクリーンホームドア」の2点です。

(1) 直下施工

南2工区直下施工箇所では、地下トンネルから接続する軌道面が徐々に高くなっていき上空の現在線工事桁に迫っていく姿が望めました。連立工事の現場は何度か見学したことがありますが、直下施工は初めてで、大変見応えがありました。現地では工事桁上を走行する特急列車の音や振動も相まって、より一層迫力がありそうです。今後、長時間にわたる切換工事を控えているとのことで、無事の完遂を祈っております。

(2) フルスクリンホームドア

新駅1番線に導入予定の「フルスクリーンホームドア」には本当に驚きました。意外と知られていませんが、いろいろな列車が発着するターミナル駅のホームドアは、設計そのものが至難の業です。あらゆる車両のドアを全てカバーするためにホームドアの扉を大きくすると、開いた扉の収納スペースや柱・壁類を設置する場所が少なくなってしまうからです。そのような場合、ドアの新規開発や検討のためのコスト・時間も大きな課題となります。フルスクリーンホームドアは、新しいアプローチから課題の解決を図る、まさに

「どこでもドア」。開業したら、是非とも動作しているところを見に行ってみたいです。

(3) 動画での見学～わかりやすい字幕解説～

今回は動画での見学でしたが、全体の説明だけでなく、端に映りこんだ資機材や作業にも丁寧でわかりやすい解説キャプションが付けられていました。実際の現場での見学は、時間の制約などで些細な疑問を感じてもなかなか質問できないことが多いのですが、今回は細かいポイントまで知ることができました。まさに動画ならではの工夫、参考にしたいです。

2. 近況と今後の抱負

(1) 近況

これまで鉄道会社で主に駅改良工事を担当してきました。現在は品川駅を担当していますが、今回の見学を通じて大阪駅とのプロジェクトの共通点を強く感じました。“時代に合わせて施設を再編し、生み出した土地へ新たなまちと鉄道ネットワークを創出する”というプロジェクトの起点が似ているためか、苦労している点が「軟弱地盤と多数の埋設物、文化財調査への対応」であることまでもが一致していて驚きました。建設プロジェクトは「一点モノ」として扱われ一見バラバラなようですが、個別の課題や要素を捉えると実は別の場所で同じことに取り組んでいることも多いのではないのでしょうか。自分自身も知識を深めつつ、共通するノウハウや知識などを可能な範囲で情報共有できないだろうか、と考えさせられました。

(2) 今後の抱負

…と、ここまで書きつつ、実は2022年2月に第一子を出産し現在は休職中です。

多くの土木事業は非常に長時間を要するものですが、同時に、時代の変化によって変動する“暮らし”のニーズにも柔軟に合わせていくことも忘れてはならないと感じています。私自身、子どもが産まれてから「暮らしと地域に根差した仕事をしたい」という思いが強くなりました。

将来の自分や子どもたちが営む“暮らし”を念頭におき、その“暮らし”に寄り添う鉄道を考えていくにあたり、今後は、まちや世の中に関する知識や新しい技術、アイデアについても様々なことを学んでいきたいです。

最後に。今回は、残念ながら総会・懇親会への参加が叶いませんでしたが、次はぜひ参加したいです！ それまでに育児と仕事、自分ができることを精一杯取り組んでいきます。



【当日参加の様子。娘も一緒にいましたが、本人は夢の中。土木女子への道のりは遠そうです。】



総会に参加して
川瀬 瞳（中部支部）

私は 2014 年に会のことを知り、軽い気持ちで入会しました。入会当初は知り合いもおらず、交流に対しても積極的ではなかったのですが、総会に参加していませんでした。参加のきっかけとなったのは、2017 年に名古屋で開催された総会です。開催地が近いということもあり、お手伝いを兼ねて参加してみることにしました。そこから少しずつ会のことを知り、今に至ります。

コロナ前までは現地開催だった総会も、今ではウェブ開催が定着しつつあります。人に会えない、行事を体験出来ない、などの物足りなさ

はありますが、様々な理由で現地に行けない方がネット環境さえあればどこからでも参加できるというメリットが生まれました。

ウェブ開催、初回は北海道支部でした。初の試みに果敢にチャレンジされた北海道支部の皆さんのおかげで、ウェブ開催 2 回目となる中部支部も、滞りなく執り行うことができました（と、思っています）。そして、3 回目となる今年、開催側も参加側も「ウェブ」に慣れてきたように感じました。どうやって入出するの？ 音はどうやって切るの？ といった初歩的な質問を受けることは無くなったと思います。将来、対面に戻った時も、ウェブのノウハウを引き継ぎ、多くの会員に参加してもらえる環境づくりにつながればいいなと思いました。

○関連行事

オンライン現場見学会では、ナビゲーターの深瀬さんが、会員をばっちりエスコートくださり、いつの間にか鉄道の世界に入りこんでしまっていました。最新のホーム扉、面白改札、鉄道の切り替えポイント、巨大な雨水侵入防止扉、枕木の合理的な設置方法、施工途中の線路これからどうなるの、巨大な地下空間、こんなところに換気塔、などなど見所が沢山ありました。実際に現地に行った場合、ここまでものを見ることは出来なかったと思います。説明途中のチャットでの質問にも丁寧に対応してもらい、大満足です。ちょっぴり鉄道オタクの私にとっては、夢のようなひと時でした。

○懇親会

懇親会は少し遅れての参加でしたが、自然に混ぜてもらえて、ほっとしました。そんな、小心者の私ですが、ブレイクアウトルームが結構好きです。だれと同じ部屋になるかわからないスリル（それほどのものでは無いのかな…）がたまりません。最初の部屋では、とにかく話をしたくて質問攻めのような状態になってしまい、深く反省しました。なので、次の部屋では、聞き役に徹しま

した。定刻の9時にお開きとなり、「もう終わりの～涙」と後ろ髪を引かれる思いでしたが、来年の懇親会を楽しみにします。

○総会

翌日の総会は前日の楽しい雰囲気から一転、緊張感のある司会で進行されました。滞りなく完了してほっとしました。特に後半の退任される方（役員や支部長）にスピーチをしていただいた点がとても良かったです。支部長の思いがしっかりと伝わりました。現地開催はいつになるかはまだわかりませんが、皆さんと直接お会いできることを楽しみに、日々頑張ろうと思いました。

最後に、総会の準備から開催まで携わってくださった西日本支部の皆さまに感謝致します。ありがとうございました。



ハイブリッド総会に 参加して

坂口未由希（西日本支部）

今回、私は初めてハイブリッド（対面＋ウェブ）の総会に参加しました。そして、今年は初めて運営メンバーとして総会の準備に携わりました。正確には深瀬支部長をはじめ、西日本支部の皆さまに助けてもらいお手伝いした、という表現が正しいかもしれません。

私自身は社会人歴約6年になりますが、今まで研修や見学会に参加することはあったとしても、自分が準備する側にいたことは少なかったように思えます。一応、小規模な現場見学会等を運営したことはありましたが、見慣れた職場で、かつ対面形式だったため、従来どおりにやれば大抵「なんとかなる」ものでした。今回の対面＋ウェブのハイブリッド形式は私にとっては未知でした。最初は少し不安もあったのですが、打合せ

や予行演習を終え、ハイブリッド形式でも「なんとかなる」と実感しました。

総会メンバーの皆さまはオンライン会議というものに慣れていたため、会場設営から進行まで非常にスムーズに決まっていきました。普段と違う会場、様々な通信環境の中からの参加ということで、予行演習の際に少なからず問題が発生しましたが、その問題に対してもみんなで落としどころを見つけ解決していきました。間近で、この意見を出し合い解決するプロセスを見て凄いな、流石だなと思ったのを覚えています。今回、運営メンバーになって多くのことを学ぶことで良かったです。

今回は、総会の前日のイベントとして40周年記念誌のお披露目会がありました。記念誌自体はまだ完成はしていなかったのですが、WGの皆さんが歴史をたどるまでの苦労や、歴代の会長へのインタビューの様子などを伝えてくれました。私自身初めて知ることばかりで、出来上がった記念誌を読むことが一層楽しみになりました。今回参加できなかった会員の皆さんにも、こういったWGの方々の生の声を聴く機会があると、記念誌がより興味を持たれるきっかけになるのではと思いました。

そして、総会と言えば、やはり懇親会がビッグイベントになるのではないのでしょうか。今回は情勢的に対面でというのは叶いませんでしたが、ウェブ上でも皆さまとお会いしてお話ができて楽しかったです。会社の人以外と話すというのは、貴重な機会でもとてもありがたいです。近況報告ということで会員の皆さまの仕事やプライベートの話を聞きましたが、総じて感じるのは会員の方々は話し上手だなということです。職種はそれぞれ違いますが、土木という部門で常に人と接しながら働いているから、惹きつけられるようなお話ばかりでとても勉強になりました。あと、ウェブ上でのやり取りも楽しかったです。やはり次回は、皆さんと直接お会いしてお酒を飲みな

がら語ってみたいと思いました。来年の九州の総会では情勢が落ち着いていることを期待しています。



【総会@ドーンセンター】



初めての総会参加

北崎千愛(九州支部)

私は2020年3月に大学を卒業し、2020年4月に現在の会社に入社しました。今年で入社3年目となります。土木技術者女性の会には会社の先輩からのお誘いで2020年12月に入会し、今回初めて総会に出席しました。仕事の関係で大阪出張に来ていたので、前日の関連行事、意見交換会には参加できませんでしたが、総会には会場で参加しました。コロナ以前の総会がどのようなものだったかはわかりませんが、今回の総会は新型コロナ

ウイルスの影響で会場+オンラインのハイブリッド開催でした。オンラインでも進行がスムーズに進むよう議決の仕方など工夫されていて、当日は通信等のトラブルもなく最後まで順調に進みました。自分の仕事の合間を縫っての準備で大変だったのではないかと思います。総会開催に関わられた皆さん、ありがとうございました。

総会には全国各所から多くの方々が参加されており、女性の土木技術者がこの会に入っている方だけでもこんなにたくさんいらっしゃるのかと思うとそれだけでも「私も頑張ろう」という気持ちになりました。会場参加をされていた方とは、総会前後にご挨拶させていただく時間があり、皆さん温かい方ばかりで時間があればもっといろいろなお話をしたかったです。またお会いする機会があればそのときはよろしく願いいたします。お話してくださった皆さん、ありがとうございました。

今回、福岡から関西へ行けるせっかくの機会だったので、8年間神戸に住んでいる高校時代の親友に神戸観光に付き合ってもらい、また、大学時代、一緒に部活動を頑張った大阪在住の親友とユニバーサルスタジオジャパンへ行きました。

コロナウイルスの影響で卒業式、入社式はなくなり、対面での研修も3年目になる現在まで一度も行われたことがありません(全てオンライン)。そのため、土木の同期の7割程とはまだ直接会ったことがありません。今は感染症予防対策のためオンラインのみでの開催が多いのは仕方がないと理解しており、仕事に支障をきたすこともないのですが、それでも直接会ってコミュニケーションが取れないことは寂しいと感じています。久しぶりに仲の良い友達と対面で会うことができてリフレッシュされ、大変充実した出張でした。

遠くにいてもすぐにつながることでできるオンラインは大変便利なものですが、対面で会ってこそできるコミュニケーションや実際に現地に行ったからこそ体験できることもあると思うので、早くコロナが終息し対面での活動が以前のように増えると良いと思います。もちろんコロナ禍で使われるようになった便利なオンラインも上手に活用しつつです。



【高校時代の親友と神戸観光】

来年は直接多くの会員の方々と会ってお話ができると思います。その機会を楽しみにしております。



【ユニバの進撃の巨人最高でした】

メディア掲載

会のウェブサイトにて最新情報を掲載しています。

<https://www.womencivilengineers.com/related-article>

サポーターおよび新規会員募集

一般社団法人土木技術者女性の会では、当会の活動をさらにパワーアップするため、私たちの理念に賛同し、継続して活動を応援して下さる「サポーター」を広く募集いたします。皆さまのご支援をどうぞよろしくお願いいたします！

<https://www.womencivilengineers.com/admission/membership-type>

寄附制度のご案内

土木技術者女性の会は、土木学会誌（1982年9月号）に掲載された「座談会：女性土木技術者おおいに語る」がきっかけで1983年1月に発足しました。任意団体として30年の長きにわたり活動をし、2013年11月18日（土木の日）に一般社団法人 土木技術者女性の会として新たなスタートを切りました。全国規模での総会、見学会やセミナー、シンポジウムや支部による活動などを通じて、女性土木技術者、将来の女性土木技術者に対して幅広い年齢層のロールモデル提供の場、指導者育成の場、キャリア継続支援の場を提供しています。

つきましては、当会の社会貢献活動への取り組みをご理解いただき、ぜひ、一般社団法人 土木技術者女性の会への御寄附をお願い申し上げます。

<https://www.womencivilengineers.com/donation/guidance>



牛山育子会長 ホトケの文書講座 ー其の貳ー

西日本支部の勉強会で大きな反響を呼んだ講座の中からお届けします。
自身を見直すきっかけにいかがですか。

【問い】

この「ら抜き言葉」のうち、間違いが4つあります。皆さん分かりますか？

日本語の基礎



○ら抜き言葉

- ・切れる
- ・着れる
- ・乗れる
- ・食べれる
- ・出れる
- ・来れる

このうち、間違いはどれ？

【答】

いわゆる「ら抜き言葉」とは可能の意味の「見られる」を「見れる」ように言う言い方のことで、話し言葉の世界では昭和初期から現れ、増加したものです。

見分け方は、否定語にして、「れ」を「ら」に入れ替えてみてください。成り立つ場合は、

「ら」抜き言葉ではありません。

ら抜き言葉？	[れ] ⇔ [ら]		○ or ×	正しい表記
切れる	切 [れ] ない	切 [ら] ない	○	「切れる」
着れる	着 [れ] ない	着 [ら] ない	×	「着られる」
乗れる	乗 [れ] ない	乗 [ら] ない	○	「乗れる」
食べれる	食べ [れ] ない	食べ [ら] ない	×	「食べられる」
出れる	出 [れ] ない	出 [ら] ない	×	「出られる」
来れる	来 [れ] ない	来 [ら] ない	×	「来られる」

⇒なんでも「れる」「られる」を付ければ可能を表したり、敬語になったりするわけではありません。

次回もお楽しみに！

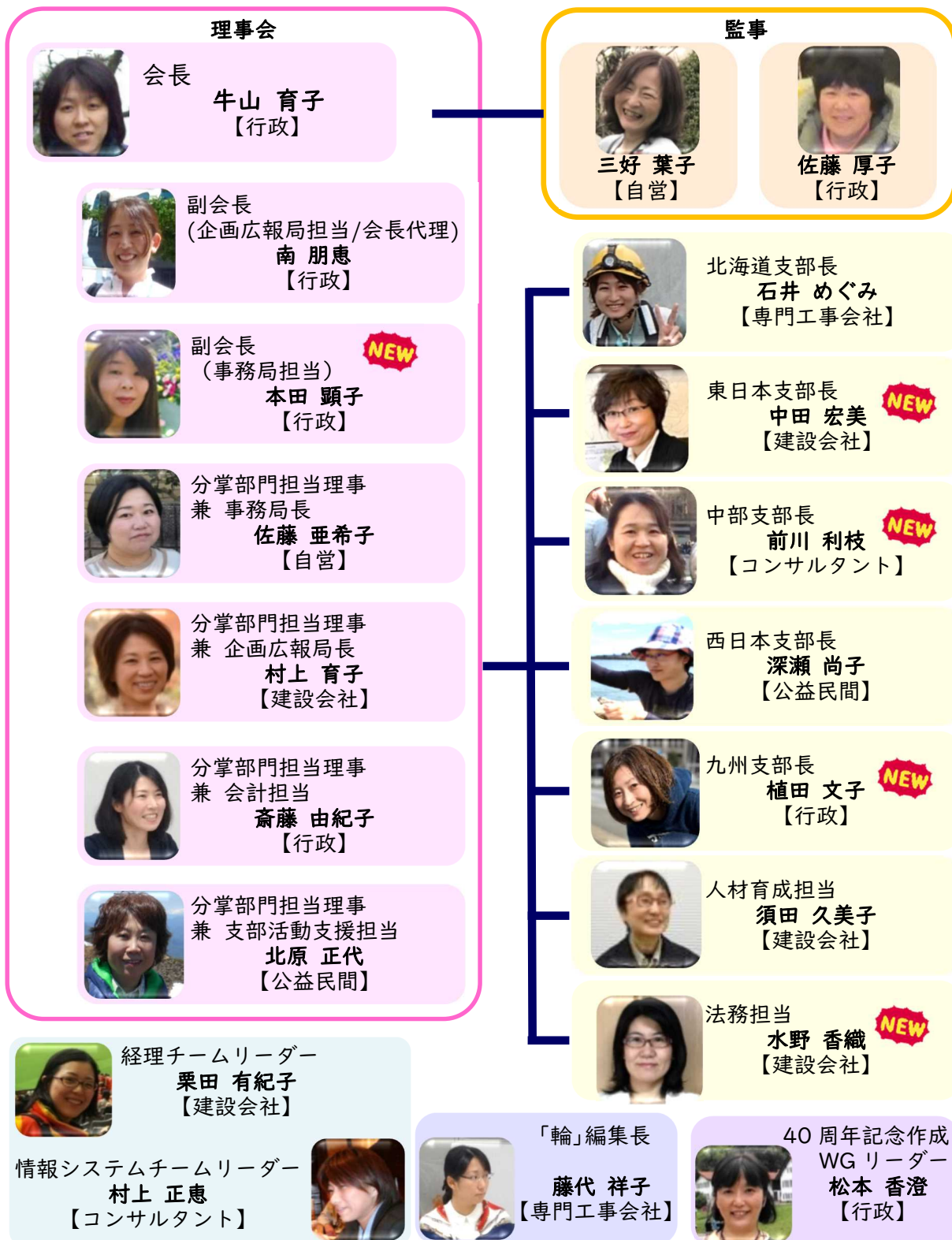
※間違いとしてとりあげていく日本語のうち、いくつかは現代日本語として許容すべき、という意見もある言葉も含まれています。その意味で、間違いとまでは言い切れない言葉もありますが、「本来の正式な日本語としてはどう表記すべきか」に主眼を置いています。その点に注意してお読みください。



(一社)土木技術者女性の会 組織図 2022



2022年度の運営委員をご紹介します。当会の運営は、このほかにも各組織・各支部に多くの有志によるスタッフが所属し、支えられています。スタッフは随時募集していますので、興味のある方は所属する支部の支部長までご連絡ください。



●●● 新任運営委員の紹介 ●●●

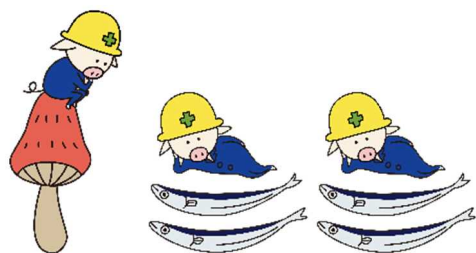
今年度は、副会長や支部長の交代がありました。また、運営委員（法務担当）が新設されましたのでご紹介いたします（九州支部長はp.1 巻頭言を参照）。



**副会長(理事)
就任にあたって**

**本田 顕子
(九州支部)**

6月の総会で理事に選任いただいた九州支部の本田顕子です。水野香織さんに替わり事務局担当副会長に就任いたしました。今回、会の運営に関わる大役を事務局スタッフとしての経験が無いまま務め始めて早や数ヶ月、改めて責任の重さを痛感しています。私はこれまで九州での当会活動の活性化や支部化（2020年九州支部設立）に取り組んできました。これからは副会長として、全国の会員の皆さま、サポーターの皆さまの期待に応えられるよう、精一杯努めて参りますので、皆さまどうぞよろしくお願いいたします。



**東日本支部長
就任にあたって**

**中田 宏美
(東日本支部)**

このたび、東日本支部長に就任しました。土木屋になって丸26年、岐阜の地場ゼネコンで現場監督としてキャリアをスタートさせ、8年前の転職を機に内勤となりました。街や旅先で工事現場を見つけると必ず立ち止まり見入ってしまうほど、現場が大好きです。サッカー（FC 東京）と音楽（ヴァイオリン）をこよなく愛し、最近の目標は程良いWLB（ワークライフバランス）の実現です。よろしくお願い致します。

東日本支部はエリアも広く会員数も最大の支部です。前任の小林さんが精力的に支部を引っ張ってきた姿を支部スタッフとして見続けてきたので、その意を受け継ぎ、皆さんと東日本支部を盛り上げていきたいと考えています。2020年度よりコロナで活動が制限されていましたが、政府の方針により少しずつ以前のような活動が戻ってくると思われます。東京都内だけでなく、東北地区も含めた支部エリア内各地で多様なワクワクするイベントを企画し、多くの会員さんと交流できることを楽しみにしております。

私は入会後数年の間、幽霊会員でした。最初の一步がなかなか踏み出せず、今となっては「なんでもっと早く活動に参加しなかったのだろう」と後悔しています。私のように会員にはなったもののイベントになかなか参加できない

という方もいらっしゃると思いますが、現在は zoom 開催のイベントも多く最初の一步が踏み出しやすくなっています。「こんなイベントやってみたい!」といったアイデアも大募集です。皆さん一緒に「土木」を楽しみましょう。



**中部支部長
就任にあたって**

**前川利枝
(中部支部)**

このたび、中部支部の支部長に就任しました前川です。中部支部は東海北陸地方と長野県に在住している会員で構成されている支部です。現在は愛知県を中心とした活動が多いですが、ウェブ等をうまく活用しながら各地の会員さんと活動できるよう工夫したいと思っています。

私が支部長になって楽しみにしていることの1つは「支部会のテーマを考える」です。年に3~4回の支部会それぞれに設けるテーマは、会員の皆さんからこれまで誰かと話してみたかったこと、知りたかったことなどなどを募って考えます。もちろん、私もたくさんテーマ案を出します。テーマはあちこちから見つかり、会員の皆さんと話して考えたいことが多くあります。支部会で「次回の支部会はこんなテーマでどうでしょう」と投げかけただけで、様々な視点から意見が挙がり、すぐさま次のテーマが始まってしまいそうになる、そんな支部会が大好きです。

誰かと話してみたい、共有したいといった皆さんの思い、お待ちしております。支部会で楽しく交流しましょう! よろしくお願い致します。



**運営委員
(法務担当)
就任にあたって**

**水野香織
(中部支部)**

このたび、運営委員(法務担当)に就任しました水野香織です。昨年度まで副会長(事務局担当)として活動してきたなかで必要であると考えた、運営規程やマニュアルの再確認や見直しについて、引き続き担当させていただきます。運営委員(法務担当)は、今回時限的に設けられた委員になります。皆さまよろしく願い致します。

理事在任中は、新型コロナウイルスの影響により活動変化を余儀なくされ、残念に感じる事が多くありました。しかし、WEBを活用した活動に多く参加するようになり、ある意味「コロナ転じて福となす」の部分もあったと考えられるようになりました。総会開催方法の多様化や他支部の活動への参加など、新しいチャレンジを会員の皆さんと実行できたことは、私にとって、大変貴重な思い出に残る4年間となりました。

引き続き、『会の5つの目的』と『土木LOVE』の思いを胸に、運営委員の一員として活動を行っていきます。皆さまからのご指導・ご支援よろしくお願い致します。



●●●運営委員 退任によせて●●●

新体制移行にあたり、前東日本支部長 小林千佳さん、前中部支部長 青木治子さんが退任されました。長年、当会のためにご尽力いただいたこと、改めて感謝申し上げます。



感謝しかないです
小林千佳
(東日本支部)

2017年に入会わずか5年目で前任の北原理事から支部長を引き継ぎ、まだ会のことがよくわかっておらず不安だらけでしたが、北原理事は会の初期より東日本支部活動を支えてくれた方であり、私の在任中においてもずっとご支援いただきました。深く感謝しております。

東日本支部の運営は、お手伝いしてくれる方にスタッフをお願いして進めていますが、皆さま本来業務がお忙しい中で、やれる人がやれることを、というモットーでやってきました。うまくマネジメントできず場当たり的な運営が大部分でずっと反省しきりでしたが、この間支えてくださったスタッフの皆さまにも本当に感謝しております。

在任中の思い出としては、外環PJとインフラメンテナンス石岡でリコチャレ参画を実現できたこと、古事記を味わい土木に気付きを得るという「弥栄の会」を立ち上げたこと、福島原発をはじめ数々の見学会を開催できたこと、青森県など東北地方の建設系女性と交流が出来たこと、2019年度に大崎で開催した総会では関連行事として渋谷駅改良工事見学と天野玲子さんの講演を実現できたこと、キャリアセミナーでは素晴らしい講師陣にご講演いただき毎年継続できたこと、後半はコロナ禍に苦しみつつ工夫し

ながら何とか支部活動を継続できたことなどが浮かびます。

振り返ると、支部スタッフと支部会員に支えられ、また、運営委員の皆さまに色々と相談に乗っていただき何とか5年間やってこられたと思っております。そして、中田支部長に後をお引き受けいただけましたことに、深く深く感謝しています。お世話になった皆さま、本当に有難うございました。

最後になりますが、支部長としての私の一番のモチベーションは、会員の交流機会を作ることにより、私自身も会員との交流で励ましをいただけることを実感して会に参加してきました。これからも支部内外で交流を図っていきたいと思っていますので皆さま引き続きよろしく願います。



支部を越えた活動
～こども支部長の奮闘～
青木 治子
(中部支部)

第10回総会をもって、中部支部支部長を退任致しました。一緒に活動をしていただいた運営委員の皆さま方、そして、私を支えてくださった支部の皆さま、特に西雪美樹さんと川瀬瞳さんには本当にお世話になりました。ありがとうございます。4年間を振り返ると、リコチャレを開催することができたこと、西雪リコチャレリーダーはじめ準備から当日まで携わっていただいた会員の方々のお陰です。コロナ禍で中断を余儀なくされましたが、今年度から引き続きリコチャレイベントを開催することができています。一番のキ

ーワードは、コロナ。コロナ禍の中、どのように支部活動を進めればいいのか、ウェブで上手くコミュニケーションを取ることができるのか、不安はいっぱいありましたが、そんな悩みも開催してみたらなんてことはなく、無事に進めることができました。特に懇親会好きの私の提案によって、全国各地の皆さまとウェブ飲み会を開催できたことはとても楽しかったです。ご協力いただいた支部長の皆さま、ご参加いただいた皆さま、本当にありがとうございました。楽しく、忙しく、そして濃厚な 4 年間でした。ご迷惑をおかけしたことも多々ありましたが、成長できたと感じています。今後も引き続き、何かしらの形で会の活動には携わっていきたいと考えております。その際にはどうかよろしくお願い致します。



<編集後記>

◆福島香菜子（北海道支部）



2023年度の九州支部の次は、北海道支部にて総会開催予定です。コロナ前に近い内容の見学会が期待されますね。

◆生野静香（東日本支部）



私がいる地質分野においても、重い腰をやっとこ上げ、DX化のビジョンを描き、動こうとしています。中でもAIの活用は避けられず、メリット・デメリットを熟慮の上、人は「ルール」を決め、「判断」をする立場へまわるのだらうな…と思っています。本誌の在り方や響き方も変革の時なのかもしれません。

◆藤代祥子（編集長/中部支部）



今年度は、発行が大変遅くなってしまい、楽しみにしてくださっている皆さま方には本当に申し訳ありませんでした。

現場見学会は、直前に現地から動画視聴+解説へと変更になりましたが、動画だからこそ見られた面があったなど、楽しい会になった様子が伝わってきます。

◆松田めぐみ（西日本支部）



会社にいると女性の技術者は少ないなあと心細いですが、今号で何人もの女性技術者がいるんだなと実感し、心強いなと感じました。

◆高橋典子（九州支部）



西日支部で開催された総会に、入会後はじめて参加しました。会場は緊張感もあり、とても刺激になりました！前日の現場見学会は、ウェブ開催の裏側まで見ることができてとても勉強になりました！来年度の総会は九州での開催です。皆さまに直接お会いできることを楽しみにしています。

「輪」への投稿・ご意見は「輪」編集委員へ、
その他のお問い合わせ、ご意見は事務局まで、お願いします。

「輪」編集委員：rin@womencivilengineers.com

事務局：infoswce@womencivilengineers.com

【「輪」編集委員】

藤代祥子（編集長/中部）/福島香菜子（北海道）

生野静香（東日本）/熊本好美（東日本）

松田めぐみ（西日本）/高橋典子（九州支部）

【事務局】

佐藤亜紀子（事務局長）

〒150-0002

東京都渋谷区渋谷三丁目1番9号矢沢ビル4階

TEL 050-3738-4975

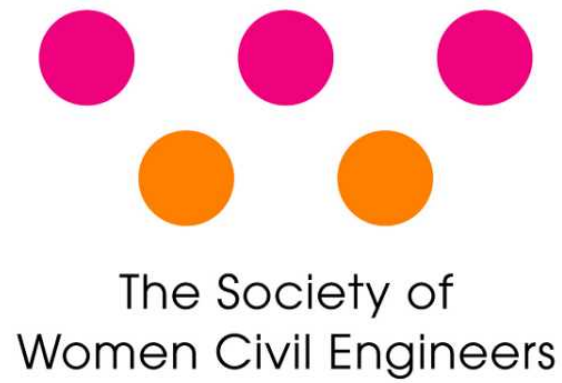
<https://www.womencivilengineers.com>

「輪」2022年度 秋号（第72号）

2023年 3月 30日発行

一般社団法人 土木技術者女性の会

The Society of Women Civil Engineers



一般社団法人 土木技術者女性の会
「輪」 2022 年度 秋号 (第 72 号)